



ビオトープ・ニュース064

発行日 2014/04/01

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部
 事務局：徳島市山城町東傍示 5-281 新弘測量設計㈱内
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

■ビオトープ・サロン 生物多様性戦略と持続可能な土地利用 ～自然との共存への険しい道のり～

消えゆく身近な自然…雑木林、関連記事として本誌バックナンバー058、055、026 もご覧ください。(編集局)

【都市は【緑の基本計画】で、農村は【田園環境整備マスタープラン】で、持続可能な土地利用を！】

記者：櫻本幸実(会員)



2004年3月、アオサギとシラサギ類の巨大コロニーとなっていた雑木林が伐採され宅地に変貌、コロニーは近隣の別の雑木林へ移転しました。その後、2010年11月に、再び訪ねてみました。(左の写真は2001年3月撮影、トキヤコウノトリを彷彿させます。)

かつては明るいくヌギ林で、林内を走り回ったり、木に登ったり、遊び道具の材料を調達したり、また、林床はふかふかの落ち葉にシュランの株が転々と、明るい林内や林縁には

スミシをはじめ様々な野草が四季折々に花を咲かせ、チョウやミツバチもやってきました。山と川をつなぐ中継点として、また、餌を求めあるいは子育ての場所を求めて様々な野鳥が訪れ、スズメのお宿ともなっていました。もちろん、カブトムシやクワガタを求めわくわくしながら探し歩いたものです。

時代は大きく変わりました。薪のための落枝拾いも堆肥の落葉掻きも無用となりました。外で遊んだり、自分たちで玩具や遊び道具を工作したりすることもなくなりました。そして、玩具や工作物止まらず、カブトムシやクワガタまでが、デパートやスーパーマーケットで容易に手に入ります。今、人が育つ環境を考える必要がありそうです。

雑木林は人々の生活から遠ざかり、経済成長とともに工場や新興住宅地へと姿を変えました。開発から逃れ残った里地の草地や雑木林は、人知れずひっそりと野生の命をつないでいました。生物多様性保全が求められ、豊かな自然とともに里山が注目されるも、里地の草地や雑木林への関心にまでは及びません。

こうした中、危機は突然にやってきました。ソーラー・バブルとも揶揄されるメガソーラーです。エネルギー危機の救世主のひとつとして、国家的政策が推進されることとなりました。地方では、低迷する地域経済再生の切り札ともなり、開発が目白押しとなっています。自然にやさしい、エコなエネルギーとしても期待されています。

何かにつけ【自然との共生】が枕詞となっている昨今ですが、一口に【自然】と言っても人それぞれに異なるようです。また、【エコ】も同様に様々なとらえ方があるようです。そして、3.11が見せた計り知れない自然の猛威、これが引き金となって、人の関心は防災とエネルギーへと大きくシフトしました。

防災ではコンクリートか自然林か、エネルギーでは原発か自然・再生可能エネルギーかと議論されるも、やはり経済優先の選択が避けられないようです。こうした現実の中で、持続可能社会の姿を描き、未来に何を残すべきかをしっかりと考え、賢明な選択をしたいものです。そのためには、環境と経済、このバランスが大切です。そして、自然との共存は、土地利用における【自然と人間の折り合い】が大切で、真の意味での戦略的な計画が必要不可欠です。



野生と人間との摩擦の主因は過密と接近、対策はビオトープ保全・創出とすみわけ。 撮影：2010年11月27日



ソーラー発電所ができるとの噂を聞き訪ねると、絶句。(発電所か否かは未確認) 撮影：2014年03月09日



反対側に回ってみるとご覧のとおり、緑地の消失は炭素の固定源も消失すること。 撮影：2014年03月09日



左の写真は、画像取得2011年5月5日のグーグルアースから転載しました。中央の緑地が伐採された雑木林です。

ビオトープの保全と創出、「まずは保全から」これが合い言葉のはずですが、本来のビオトープが消える一方で、人工ビオトープづくりは何とも言い難い心境です。

徳島県は【環境首都とくしま】を掲げ、豊かな自然を次世代に残すことを目的に様々な施策が展開されています。

一方、全国的にも誇れる【とくしまビオトープ・プラン】が平成14年に策定されており、また、昨年10月には【生物多様性とくしま戦略】も策定されました。徳島の豊かな自然も、身近な自然も、次世代に残すための戦略的な土地利用計画を！

■ビオトープ・サロン ビオとくコーナー ～学校ビオトープの活動支援～

3月5日、会員の稲飯さんが、徳島県ビオトープ・アドバイザーとして活躍しました。 (編集局)



【学校ビオトープを題材に生活科教育】

徳島県内でも学校ビオトープが各所で導入されていました。その後の様子は、また、活用はどのようにされているのでしょうか？…気になるところです。一度訪ね歩いて、今後の支援活動に活かしたいですね。

マルチ教材と評される学校ビオトープは、[持続可能な開発のための教育]、つまり、[持続可能な社会に向けた人づくり]の場や機会としても大きな効果を発揮します。そのためには、**継続的な管理と戦略的な活用**が必要不可欠です。学校毎の**年間授業計画**に組み入れ、発達段階に応じて**全学年の授業で上手に利用**して頂きたいと思います。まずは継続すること。これがなかなか難しい…先生、がんばって！

■みんなの“たからもの” 春はまだか…それとも沈黙の春？

寄稿：Kさん

【啓蟄が過ぎて15日、今日は春分です…ミツバチはどこ？】



今日は春分です。「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、我が家のサクランボの花は既に多くが散りました。しかし、今年も**ミツバチの姿**は目にしていません。ニュース058で紹介された～農業でミツバチの群れ消失～の影響、それとも気温のせいかな？

我が家には、爺さんが孫のためにと植えた果樹が十数種類あります。かつては、このサクランボにもミツバチが群れてやってきていたように思います。しかし、最近はいま目にするのではなく、**受粉ができてきているのか**気になるところです。ちなみに、昨年はわずかししか実が付きませんでした。ミカンやピワやカキは隔年で豊凶があるように思います。サクランボにも豊凶年があるとすれば、今年は豊作の年で、たくさんの実をつけてくれるはずですが？(ミツバチの活動期は2～11月)

もう一つ不思議なことがありました。ここ十数年、**グミの実が一度もならない**、花はたくさん咲くのですが、実は数年前、原因がわかりました、スズメの仕業です。開花時期にスズメが群れてやって来る、つまり、結実する前に花を全て食べられていたようです。**スズメも餌不足**なのでしょう、人間環境も野生環境も大きく変化しています。

ついでに、右の写真はクサガメ君です。園芸や愛玩動物好きの婆さんに孫がプレゼントした子亀が大きくなりました。水を替えてやったらつづらな瞳が…春ですよ！



■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより **無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 (編集局)

【ビオトープ論の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問64：次の記述のうち、漁業による自然生態系への影響に関する解説として、間違っているものを選びなさい。

1. 漁場の移動・拡大は、漁業技術の進歩と需要の拡大だけでなく、水産資源の枯渇による新たな漁場開拓によるところも大きい。
2. 直接採集による個体群への影響だけでなく、養殖などで使用される飼料や水産養魚病薬品の投与による海洋環境汚染が問題となっている。
3. 南太平洋まで範囲を広げて漁獲されているマグロ類は、クジラ類などと共に海の生態系の上位に位置しており、乱獲による生態系破壊が懸念される。
4. 内水面漁業で行われるさけやアユなどの放流は、河川の生物多様性保全にも大きく貢献している。
5. 流し網漁や刺し網漁による混獲の影響により、ウミガラスやエトピリカなどの海鳥が、絶滅の危機にある。

■前号063の正答「4」

個々の生物の分布の範囲を区切る線を**分布境界線**といいます。特に、生物地理学において、多くの生物の分布の境界になっている**生物相の異なる区域の境界線**のことを指します。①**三宅線**：屋久島、種子島の北と九州との間に引かれた線で、南方系の蝶類はこの線を北限にしているものが多い。②**渡瀬線**：トカラ列島南部の悪石島と小宝島の間に引かれた線で、この線を境に北は旧北亜区、南は東洋亜区に分かれ、多くの動物がこの線を境として分布を異にしている。③**宮部線**：択捉島の北と得撫島との間に引かれた線で、トドマツ、エソマツ、ミスナラなどの樹木種の分布の違いから引かれた。④**ブラキストン線**：本州と北海道の間の津軽海峡に引かれた線で、ツキノワグマの北限、ヒグマの南限となっている。⑤**八田線(宗谷線)**：宗谷境界(北海道とサハリン間)に引かれた線で、両生類、爬虫類などの分布の違いから引かれた。これらの他に、**対馬線(対馬海峡線)**、**朝鮮海峡線**、**蜂須賀線**や、陸上に引かれた**本州南岸線**と**ハマオモト線**などがある。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局 [E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>]